

令和2年度第2回（第51回）栗東歴史民俗博物館協議会の概要

開催日時 令和3年1月21日（木曜日）14時00分から14時50分まで

開催場所 栗東歴史民俗博物館 研修室

出席者

協議会委員 西尾 悦子（会長）、月野 みつ（副会長）、大西 洋子、大橋 信弥、
奥野 初恵、川那部 隆徳、國賀 由美子、山本 喜三雄
の各委員（8名）

事務局 伊勢村 文二（教育部長）
片岡 豊裕（教育部次長 兼 スポーツ・文化振興課 課長
兼 歴史民俗博物館 館長）
加藤 宏之（歴史民俗博物館 副館長）
大西 稔子（歴史民俗博物館 主幹 ・ 学芸員）
中川 敦之（歴史民俗博物館 主査 ・ 学芸員）

欠席者

協議会委員 澁江 善光、吉見 静子
の各委員（2名）

傍聴者 1名

概要

1. あいさつ

2. 協議事項

- ①令和2年度博物館事業について
- ②令和3年度博物館事業について
- ③その他 博物館協議会委員の委嘱について

3. 閉会

議事

1. あいさつ

開会のあいさつ（西尾 悦子 会長）
（伊勢村 文二 教育部長）

2. 協議事項

①令和2年度博物館事業について

②令和3年度博物館事業について

資料に沿って、事務局 より一括説明。

- （委員） 令和3年度博物館事業のうち、「栗東市市制施行20周年記念展」はどのような内容か。
- （事務局） 栗東市の市制施行から20年の節目の年を迎えるということで、栗東市の20年間のあゆみを振り返ることも必要だが、「栗太郡」が消滅して20年ということでもあるので、栗太郡関係の資料を中心に紹介したい。
- （委員） 館蔵品を中心に構成されるのか。
- （事務局） そのように考えている。
- （館長） 只今申し上げたように、消滅して20年となる栗太郡の歴史を振り返るとともに、栗東市が誕生するまでの歴史、すなわち昭和29年（1954）に成立した栗東町や、合併して栗東町となった治田・金勝・葉山・大宝の4か村の歴史を解き明かし、栗東市に新たに転入して来られた方や、若い世代に伝えていきたい。
- （委員） 館蔵品・寄託品を中心とした構成で良いと思うが、館として「この資料を見せたい」という思いを持って取り組んでいただきたい。
- （館長） そのように取り組んでいきたい。
- （委員） 栗太郡は、現在の津市・守山市それぞれの一部を含むような、広範な地域である。館蔵品を中心とするのも良いが、栗太郡全域の歴史を見直すことでわかってくることもある。市制施行20周年だから、ということではなく、常に栗太郡を意識した事業を展開していただきたい。
- 令和3年度には、考古学に関する展覧会は予定されていないが、発掘調査の成果を交えて地域の歴史を紹介することも重要であり、出土文化財センターの協力を得るなどして取り組んでいただければと思う。
- （館長） 令和2年度に開催した【栗東歴史民俗博物館開館30周年記念展】滋賀県立琵琶湖文化館・栗東歴史民俗博物館地域連携企画展「栗太郡の神・仏 祈りのかがやき」の会場では、冒頭で栗太郡の範囲を示すパネルを掲示した。

栗太郡の広さへの驚きなど、来館者からの反響が大きかったことが、市制施行 20 周年記念展の着想へとつながった。長年、この地域に住んでいると当たり前を感じることも、新たに転入して来られた方や、若い世代にとっては驚きや発見であり、伝えていきたいと思っている。

考古資料については、令和元年度に発表した下鈎遺跡出土の環権には大きな反響があり、昨年 12 月に開催した綾・霊仙寺遺跡の現地説明会には多くの来場者があるなど、注目度の高さを感じている。県が市内で実施している発掘調査の成果とあわせて、公開する機会を考えていきたい。

(副 会 長) 自身は愛知県から転入してきた。栗東・栗太郡という地域に強い関心を持っているが、例えば地名の由来などは、地域の歴史を知るきっかけになると思う。

(事 務 局) 栗太郡の地名の由来の 1 つに、栗の大木があったという説話があり、現在の灰塚山は、栗の大木を燃やした灰でできたという伝承もある。栗東という地名の由来は、栗太郡の東に位置する地域ということだが、昭和 29 年 (1954) に栗東町が成立するよりも以前、昭和 23 年 (1948) には、治田・金勝・葉山・大宝の 4 か村の組合立として栗東中学校が開校している。町の成立に先立って、中学校の名称として栗東が用いられていること、また、現在の天津市瀬田に、栗西中学校をつくる構想があったともいわれており、そういった経緯も含めて紹介したい。

(委 員) 滋賀県琵琶湖文化館との共催により開催された開館 30 周年記念展は、内容も充実しており、多くの入館者があった。市制施行 20 周年記念展についても、近隣の館との連携を積極的に行うことで、充実した内容になるように思うので、ぜひ連携も視野に入れて欲しい。

令和 3 年度の重点目標の最下段で、施設の大規模改修計画の具体化について触れられているが、前回の本協議会 (※令和 2 年 9 月 27 日日曜日開催) でも述べたように、市として、歴史民俗博物館の施設の現状を把握し、早急に施設の改修を進めていただきたい。

(館 長) 開館 30 周年記念展には大きな反響があり、仏像をはじめとした宗教美術の分野の人気と、関心の高さを改めて感じた。こういった活動を継続していきたいと思っている。

施設の改修の必要性については、前回ご指摘いただいたことも含め、説明・報告をしている。市全体の中でのバランスもあるが、歴史民俗博物館を担当する立場として、施設の改修の必要性は常々意識している。

(委 員) 栗東で生まれ育ったが、先ほどの話で地名の由来などがよく分かった。市内にお住まいの方から、「歴史民俗博物館に資料の寄贈を申し出たが、断られた。」と伺ったことがある。市内には収蔵すべき資料がたくさんあ

と思うが、寄贈のお申し出はどの程度あるのか。

(事務局) 民具に関することと推測するが、数か月に1度くらいのペースで、ご寄贈のお申し出をいただく。収蔵していない資料であればお受けするが、すでに同種類の資料を収蔵している場合などにはお断りしている。

(委員) 農機具の寄贈を申し出たと伺った。

(事務局) 農機具については、開館当初に多くの資料を収集しており、新しい資料を見出すことはあまりない。最近、ご寄贈のお申し出を多くいただく農機具として、トーツワ(唐箕)がある。どこの農家でも使用していた道具であり、歴史民俗博物館でもすでに十数台収蔵していること、大型であり、収蔵スペースに課題があることなどから、お断りせざるを得ないケースが多い。

(委員) 市制施行20周年記念展に向けて、特別な予算措置は講じているのか。

(事務局) 経常経費の一環として、ポスター・チラシの印刷経費、講演会などの関連企画の開催経費が予算化されている。

(委員) 助成金等の活用は考えていないのか。

(館長) 只今申し上げた予算については、あくまでも内示段階のもののご理解いただきたい。

市制施行20周年記念展を含めた令和3年度の事業について、現時点では助成金等の活用は考えていないが、今後、積極的に活用していきたい。

(委員) いずれの博物館・資料館でも、予算の確保には苦労している現実があり、助成金等は積極的に活用していくべきである。助成金の中には、資料の修復に特化したものもあるので、活用して欲しい。

(館長) 助成金等の活用のほか、他館と連携した事業の充実を図っていきたい。

③その他 博物館協議会委員の委嘱について

(館長) 現任の栗東歴史民俗博物館協議会員の任期は、令和3年(2021)1月31日で満了となる。貴重なご意見・ご提言を賜ったことに感謝申し上げます。先に令和2年度第1回(第55回)栗東歴史民俗博物館協議会(令和2年9月27日日曜日開催)で事務局より提案し、委員各位のご賛同を得たように、次期委員の任期については、年度替わりが区切りとなるよう、
・令和3年(2021)4月1日から令和5年(2023)3月31日までの2か年を任期とする。
次期委員の委嘱については、現任の委員の皆様方に別途相談させていただき、今後の手続きを進めていきたい。

3. 閉会

閉会のあいさつ（月野 みつ 副会長）